

**問** 市民協働事業の成果について

**答** 平成21年度は11事業、22年度は6事業実施した。昨年度から取り組んだ「語り部」1000人プロジェクトの認定者は398人で、まちなかの「語り部スポット」を始め、遠野を訪れる方々へのおもてなし役として活動し、まちなかの賑わいを創出している。「博物館」のリニューアル後の入館者は約3倍、6月12・13日開催の100年祭には、市民・観光客など約6,000人が参加した。観光客・宿泊者数も過去3年間比較で10〜20%増加している。それにより、市内への経済効果も向上した。

**問** 「で・くらす」の現状と今後の対策は。

**答** 平成18年度から平成22年度8月までに、23世帯46名が移住した。昨年度の8世帯18名は奥州市に次ぎ2番目である。今年度は、市内空き家を移住者向けに提供するための「リフォーム助成金」を創設した。

**問** 災害時における要援護者等に対する支援は。

**答** 要援護者の調査対象者数は6,692人である。災害時等の見守り体制整備は24年度までに全行政区の整備と、要援護者の把握を目指す。

**問** 公設林業大学校の設置についての状況は。

**答** 今後、可能性を調査し、国に対して提案していきたい。

**問** 本市独自の学級編成基準について

## 遠野物語発刊百周年事業の中間総括は



佐々木 議 議員 (無党派)



遠野物語発刊百周年オープニングイベントでの市内小中学生合唱の模様

**答** 設置基準については都道府県の教育委員会が定めているもので、市独自の基準を設けることは出来ない。現在は1学級30名を超える学校には教員の加配が行われている。

**問** 中学校再編成について

**答** 平成25年4月1日実施を目標

に作業を進めている。小友町については、未だ再編成に対する理解は得られていないが、市全体においては、一定の理解が得られていることから、今後も合意形成の努力を続ける。状況によっては、3校同時スタートできない場合も想定する。